

伊是名島, 伊平屋島の鞘翅目記録. 琉球の昆虫, (42): 8-15.
 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
 定木良介・久保田達也, 2016. 久米島におけるオオシマルリタマムシの記録. 月刊むし, (539): 58.



図2. 賀陽山山頂付近のクワノハエノキの葉上で静止するオオシマルリタマムシ (矢印).

(宮尾真矢 412-0026 御殿場市東田中 1795-2)

【短報】福岡県におけるキボシケシゲンゴロウの初記録

キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938) は体長 2.5 mm 前後の流水性の小型の水生甲虫で, 国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 離島では隠岐島後, 福江島, 対馬, 種子島, 屋久島から記録されている (森・北山, 2002; 林ほか, 2006). 筆者はこれまでに記録がない福岡県において本種を採集したので, ここに報告する. 標本は筆者が保管している.

1 ex., 福岡県糟屋郡久山町猪野 多々良川水系猪野川, 17. X. 2018.

本個体は水質が良好な河川上流域の瀬の岸際の砂利中から得られたもので, その後探索を行ったものの追加個体は得られなかった. 本種の背部斑紋には変異があり, 特に屋久島産では同属のフタキボシケシゲンゴロウ *A. bimaculata* (M. Satô, 1972) と同様 1 対のみの斑紋をもつ個体が出現することが知られている (森・北山, 2002). 今回採集した個体の背部斑紋は 3 対で, 典型的なキボシケシゲンゴロウの特徴を有していた (図 1).

九州本島ではこれまでに長崎県, 大分県, 熊本県, 鹿児島県からの採集記録があるものの (森・北山, 2002), 一見本種が好むような環境でも生息

しないことが多く, 特に九州本島の北部では明らかに稀種と言える. 一方で九州本島の周辺に位置する対馬や種子島, 屋久島では比較的普通にみられる. 九州本島の河川で本種が少ない理由については現時点では全く不明であり, 今後の調査・研究が望まれる.

引用文献

- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘, 2006. 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料 2005 年 8 月 7-10 日に島後で採集・観察した昆虫類の目録. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 245-263.
 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.



図 1. 福岡県産キボシケシゲンゴロウ.

(中島 淳 〒818-0135 太宰府市向佐野 39 福岡県保健環境研究所)

訂正

本誌 32 号表紙のイラストのゴミムシの学名は, *Dischisus japonicus* Andrewes, 1933 と表記されていた. しかし, 会員の森田誠司氏より, 現在は *Adischisus japonicus* (Andrewes, 1933) との学名が用いられていると指摘された. さらにその後の同氏からの私信によると, 「この機会に手元の標本を調べたところ, *A. japonicus* の学名を用いるは疑問が残る. 南西諸島の個体群ではよく灯火に飛来するが, 本州産では後翅が縮小している. また, 脚の色に変異が見られる. オスの交尾器の内部構造の研究が有効と考えられるが, 現状では行なわれていない. 東南アジアの個体群まで範囲を広げて研究する必要がある」など, 種々の問題点を指摘された.